

## マンガの力で岩手の魅力を発信！ —いわてのマンガ文化応援プロジェクト—

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）  
ヴィジュアルデザイン研究室学生グループ

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

### 序

マンガの力で岩手の魅力を県内外に発信する「いわてマンガプロジェクト」がスタートして15年となる。岩手県では、プロジェクトの一環として、単行本『コミックいわて』の発行（現在14巻が発行、図1）や「コミックいわてWEB」の作品配信により、岩手の魅力が詰まった作品を多くの読者に届ける取組を行っている。

マンガを活用した魅力発信は、岩手の特色ある取組である一方、県内でマンガ文化に触れる機会が十分ではなく、「いわてマンガプロジェクト」の作品の活用や更なる認知度の向上、県内でのマンガ文化の定着が課題であると岩手県文化スポーツ部文化振興課では考えている。

そこで、「いわてのマンガ文化」の定着・発展を目指して、県内の子どもたちを始め、若年層の興味関心を高める取組や、来訪者が県内で作品に触れる機会の提供など、岩手県との協働で岩手大学の学生が応援することによって、「いわてマンガプロジェクト」の情報発信の強化と更なる定着に向けた方策の検討・取組を進める。



図1：『コミックいわて Saccola（サッコラ）』（「コミックいわて」第14巻）

無料マンガサイト「コミックいわてWEB」  
<https://comiciwate.jp/>

いわてマンガプロジェクト（岩手県公式Webサイト）  
<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/manga/index.html>

## 令和7年度地域課題解決プログラム

今年度の研究課題に関する岩手大学人文社会科学部のヴィジュアルデザイン研究室学生グループの取り組みについては以下に報告したい。

なお、本研究活動において、卒業研究として学部4年生でのマッチングはできなかったが、大学院1年生のFU YI TING（フ イテイ）が来年度の修了研究においてマンガ制作を行う準備段階として本件に取り組んだ。

### I. 本研究課題について

#### **(実施計画・方法)**

まずは、本研究計画に興味を持って関わる担当学生を複数集めてグループを形成して、卒業研究、または関連分野の体験学修としての枠組みを明確にしていく。この学生グループを中心に、岩手県文化スポーツ部文化振興課の方々と協議を行いつつ、具体的な実施内容の詳細を詰めていくことにする。

一つ目「岩手県内の子どもたちを始め、若年層の興味関心を高める取組」については、学生たちと岩手県の関係者を含めたアート思考・デザイン思考を行うことによって、アイデアの創出・提案を行い、実施可能なものがあればそれに取り組む。もう一つの「来訪者が県内で作品に触れる機会の提供」については、「コミックいわてWEB」のコンテンツを活用する。マンガに登場する県内の様々な場所があるが、それらの現地から設置したQRコードなどでWeb上のマンガにアクセスできるようにするなど、岩手県の観光とマンガをつないでいく工夫をすることによって情報発信を強化する。

また、関連してマンガを描くことができるような学生がいれば、「いわてマンガ大賞」コンテストへの応募なども情報発信と関連して検討する。

#### **○方法**

関係者間で協議し、令和7年度の研究課題においては、大きく次のような内容で行うことを計画した。

1. 「岩手県内の子どもたちを始め、若年層の興味関心を高める取組」について検討  
⇒ 「いわてマンガプロジェクト」関連展示の支援
2. 「来訪者が県内で作品に触れる機会の提供」について  
⇒ 「コミックいわてWEB」のコンテンツ活用：現地に設置したQRコードなどでWeb上のマンガにアクセス（デザイン提案）

以下に、今年度における研究活動の経過について報告する。

### II. 今年度における研究活動の経過について

#### **(結果・考察)**

#### **○「地域協創入門」受講者による提案・アイデアのまとめ**

2025年7月7日（月）、岩手大学「イーハトーヴ協創コース」における「地域協創入門」（担当：本村健太教授）において、約180名の履修者は岩手県文化スポーツ部文化振興課の佐藤愛香さんより「いわてマンガプロジェクト」の取組について拝聴した。また、同課の米澤功一さん、刈屋江美子さんも加わり、グループトークを実施した。大学院1年生のFU YI TING（フ イテイ）も参加した。

履修者によるレスポンス（授業後の感想や提案のまとめ）は以下の通りである。（生成AI活用）

#### **学生たちの印象・気づきについて**

##### **岩手県の漫画文化の存在に驚きと興味：**

- 岩手には漫画を発信するために「コミックいわて」や「いわてマンガプロジェクト」などがあることを初めて知った学生が多く、その取り組みに驚きや新鮮さを感じている。

## 令和7年度地域課題解決プログラム

- 特に、岩手県にゆかりのある漫画家が70人以上もいること、そして「ゴルゴ・サーティーン」のさいとう・たかを氏、「ドラゴン桜」の三田紀房(みたのりふさ)氏、「呪術廻戦」の芥見下々(あくたみげげ)氏、「ハイキュー!!」の古舘春一(ふるだてはるいち)氏といった有名作家が岩手県出身であることに驚きと誇らしさを感じている。
- 自分の地元や自身が知らなかった岩手の魅力について、身近な媒体を通して知ることができたという声も多く、素晴らしい取り組みだと評価している。
- 「コミックいわて」の作品を実際に読んでみて、内容やイラストのクオリティの高さに感銘を受け、楽しんで読めたという感想や、短編で読みやすいという意見もあった。
- 漫画を通して岩手の観光地や食べ物、伝承などが表現されていることに興味深さを感じ、地域への誇りや愛着を育む手段になり得ると考えている。
- 北海道出身の漫画家が岩手の漫画を描いていることに触れ、岩手の魅力や県民の人柄の良さが伝わると喜びを表す学生もいる。

### 佐藤愛香さんの行動力への感銘:

- 佐藤さんが大学3年生の時に「ふるさとCM大賞」で大賞を受賞した経験について、様々な職種の人と共同で制作したその行動力にとっても憧れを感じている。
- 大学生のうちにやりたいことや興味のあることに触れておくことの重要性を感じ、それが就職にも有利に働く可能性があるというメッセージが学生の印象に残っている。
- 地域に密着して生活や地元の魅力を知ってほしいという熱い情熱を持った人が増え、尊敬できると感じている学生もいる。

### 漫画文化に対する若年層の認識:

- 漫画自体は若者の間で嫌いな人の方が少なく、興味がある人の方が多いと感じています。
- 最近ではスマートフォンで手軽に漫画を読む環境が整っている一方、紙媒体で購入する人が減っているという現状も認識している。
- 「オタク文化」が浸透し、漫画やアニメが好きだと公言しやすい時代になっていると感じている。
- 小中学校の読書の時間で漫画が禁止され、好ましくないものとして扱われていた経験を持つ学生もおり、漫画に対する認識を変える必要性を感じている。
- グループワークで好きな漫画について話し合う時間が「本当に面白かった」と述べ、共通の話題や新しい発見があったことを喜んでいる。

### 課題認識:

- 「いわてマンガプロジェクト」や「コミックいわてWEB」の存在が、多くの岩手県民、特に若年層に十分に知られていないという課題を多くの学生が指摘している。
- 「コミックいわてWEB」が広く認知されていないため、元々岩手や岩手の漫画家に興味がある人に利用者が絞られてしまい、「新たに興味を持つ人が生まれにくい」という受動的な機会の不足を問題視している。
- 岩手県の本屋が盛岡駅周辺に偏っており、少し離れると大型書店がないため、子供たちが漫画にアクセスしづらい現状を指摘する声もあった。

## 学生たちによる提案・アイデアのまとめ

学生たちは「いわてのマンガ文化」の定着・発展、そして若年層の興味関心を高めるためにどうすればよいか、多岐にわたる提案をしている。

### 1. 学校・教育現場での取り組み

#### 学校図書館・学級文庫への設置:

- 小学校、中学校、高校の図書館や学級文庫に「コミックいわて」の単行本や岩手の漫画を積極的に置くべきだという意見が最も多く挙がった。
- 特に小学生の頃から漫画に触れる機会を増やすことで、将来的な文化の定着につながると考えている。
- 漫画は小説が苦手な子にも読みやすく、学校に置くことで自然と多くの子供たちが読むようになることを期待している。

#### 授業での活用:

## 令和7年度地域課題解決プログラム

- 学校の朝読書の時間に岩手の漫画を読む機会を設ける。
- 総合学習の時間や地域に関する授業の一環として、岩手の漫画を教材として扱ったり、タブレットで読ませたるする時間を作る。
- 漫画制作を授業の一環として行い、文化祭での展示や「いわてマンガ大賞」への応募を目指す。（絵が苦手な学生でも参加できるよう、シナリオ部門も設けるべきという提案も）
- 読書感想文コンクールの漫画版を開催する。
- 教科書や社会科の副読本に漫画要素や作品を掲載する。
- 学校と連携し、子供たちにおすすめの漫画を提供し、好きな漫画を選ばせるなど、楽しく漫画について学ぶ機会を作る。
- 大学や小中高校で漫画の授業や講義を開く。

### 学童・児童館での設置:

- 子供が多く集まる学童や児童館にも、これまで以上に岩手マンガを設置すべきだと考えている。

## 2. デジタル・SNS を活用した広報戦略

### SNS での積極的な発信:

- 若年層への周知には、SNS（Instagram、X/旧 Twitter、TikTok など）を有効活用した宣伝が最も効果的だという意見が多数を占めている。
- 漫画の一部を SNS で公開し、続きは公式サイト（コミックいわて WEB）や Web 版の購入サイトへ誘導する。
- ハッシュタグを活用したり、面白いコマや名場面を切り抜いて拡散する。
- 縦長の短尺動画（YouTube ショート、TikTok）の活用が効果的。
- プラットフォームごとに発信内容を工夫する（インスタで漫画紹介、X でイベント告知、YouTube でショート動画やアニメーションなど）。
- 岩手県庁の職員なども SNS 活動を行い、岩手の魅力を伝える。
- 岩手の漫画に関する動画を流行りの音源に合わせて作成し、バズらせることで認知度を高める。

### Web サイト・アプリの改善:

- 「コミックいわて WEB」の存在が周知されていないため、認知度向上に向けた宣伝が必要。
- 無料で手軽に漫画を読める場所としてネット広告を出す。
- ウェブ版だけでなく、スマートフォン向けのアプリケーションの開発を進めることで、より手軽に利用できるようにする。
- Web サイトで縦スクロールだけでなく横スクロールも選択できるようにし、万人受けを目指す。
- 単行本の Web 配信を強化する。
- 「コミックいわて WEB」の英語版のウェブサイトを作成し、マンガの英語翻訳を強化する。

### その他のデジタル活用:

- マンガ動画（動く漫画）の制作。
- バーチャル空間を利用して岩手に関連する漫画の世界を体験できるようにする。
- 岩手県内の中高生に配布される iPad や PC に漫画アプリをダウンロードできるようにする。

## 3. コンテンツの工夫と多様化

### テーマ・ジャンル:

- 岩手の風景や歴史、特産品、伝承などを題材にした漫画を制作する。
- 岩手の魅力を伝えることをメインにするのではなく、物語の合間に名産品や観光地をさりげなく出すのが良い。
- 若年層の興味関心のあるテーマ（SNS 文化、ゲーム実況、環境問題、飯テロ、インスタ映え、日本一、鉄道、植生など）を元に漫画を作成する。
- 雑学系や歴史などの学問を漫画化した作品を増やすことで、勉強と娯楽を両立させる。
- 物語の展開が激しくない、日常の中の岩手要素を取り入れた簡単な物語や四コマ漫画、特に SNS での高頻度投稿に適した四コマ漫画を増やす。
- 一話完結の作品だけでなく、連載物も取り入れる。

## 令和7年度地域課題解決プログラム

- 「ちいかわ」や「おぼんちゅうさぎ」のような特徴的なキャラクターの漫画シリーズを作る。
- 「大谷翔平選手に関する漫画」を描くことで若者の興味を引く。
- 岩手県全域で若年層の興味についてアンケートを実施し、それに沿った内容の漫画を制作する。

### 表現方法:

- 絵のクオリティ、話の凝り具合が重要。
- 表紙やタイトルをインパクトの強いものにする、表紙はカラーの方が目を引く。
- 短めの作品、一話完結型も受け入れられやすい。
- 音声ありの漫画にする（ボイスコミック、アニメ化）。

## 4. コラボレーション・イベント・プロモーション

### 有名人・人気作品とのコラボ:

- 岩手出身の有名漫画家（「ハイキュー!!」の古舘春一（ふるだてはるいち）氏、「呪術廻戦」の芥見下々（あくたみげげ）氏など）や有名声優の影響力を活用する。
- 若年層に人気の漫画家やキャラクター、流行りの漫画とのコラボレーション。
- インフルエンサーを採用し、岩手に関連する漫画について感想を述べてもらう。
- ユーチューバーやタレントとコラボし、認知機会を増やす。

### イベント開催:

- 漫画に関するトークショー、撮影会、ワークショップなどを開催する。
- 原画展を開催し、全国的に認知度を高める。
- 大学や大規模商業施設など人が集まる場所での広報活動。
- アニメイトのような漫画イベントを岩手版で開催する。
- 様々な大学に漫画イベントを持ち込む。
- 長期休暇を利用した漫画に関するイベント。
- 岩手出身の作者の漫画イベントを岩手で開催する。

### 「聖地巡礼」の活用:

- 漫画の舞台となった場所を「聖地化」し、観光客を誘致する。
- 全国・世界規模で活躍している漫画家の方に岩手を舞台にした漫画を描いてもらう「コミックいわて」のプロジェクトは効果的。

### その他プロモーション:

- 「コミックいわて」のCMを制作して放送する。
- 岩手県へ旅行にいかないかというテレビCMを旅行会社と共同で作成する。
- 街頭モニターに映す。
- 駅構内などの日常生活でよく見かける場所に作品の一部をポスターで掲示する。
- 岩手の漫画家をブランド化し、県外の人に自慢したくなるような帰属意識を強める。
- 駅前などにオブジェを飾ることで県民の印象付けと周知化を図る。

## 5. アクセシビリティと認知度向上

### 「コミックいわて」（電子書籍）の無料公開・試し読み:

- ネットや地域での交流の場で、ある程度無料で読めるようにして興味を持つきっかけを作る。
- 期間限定で全話無料キャンペーンを実施する。
- SNSで作品を試し読みできるようにする。

### 公共の場への設置:

- 病院（小児科の待合室など）、歯医者さん、ご飯屋さん、美容院などの公共施設に「コミックいわて」の単行本を置く。
- 岩手の観光名所に岩手の漫画を置く。

### 配布・寄贈:

- 入賞作品を小冊子として配布したり、掲示したりする。
- 学校に岩手由来の漫画を寄贈する。
- 県内の小中学生に「コミックいわて」の冊子を配布する。

### QRコードの活用:

## 令和7年度地域課題解決プログラム

- 公共交通機関や駅、公園、飲食店、ショッピングモールなどの公共施設に大きなQRコードを掲示する。

### 本屋での陳列:

- 本屋で「コミックいわて」を目立つ陳列で行ってもらう。
- 岩手の書店で漫画を買った人にポイントを与え、図書カードと交換できる取り組み。

### 美術館施設の設置:

- 秋田の増田まんが美術館のような施設を岩手にもつくる。

### ニュースでの紹介:

- ニュースで県内の子供からお年寄りまで、描いて送ってもらった漫画を毎日紹介する時間を作る。

これらの提案は、主に若年層が漫画に触れる機会を増やし、デジタルメディアを最大限に活用し、コンテンツの魅力を高めることに焦点を当てている。

この内容は、生成AIのNotebookLMを活用し、ポッドキャスト風にまとめた:

<https://youtu.be/stsP70MyRw8> (限定公開)

## ○「いわてマンガ大賞」コンテストへの応募

岩手県は、マンガ文化の振興とマンガを活用した魅力発信を目的として「いわてマンガ大賞」コンテスト(図2)を実施している。

[募集作品] 岩手に関連のある未発表・未投稿のオリジナル作品

[募集部門] 一般部門、1～4コマ部門、イラスト部門

大学院1年生のFU YI TING(フ イテイ)がその一般部門に応募(図3)した。(盛岡を舞台とした中国人留学生と日本人学生との交流の物語。残念ながら、受賞には至らなかった。)

The image shows the official website for the 15th Iwate Manga Grand Prize Contest. At the top, there is a navigation bar with tabs for '開催概要' (Event Overview), '応募要項' (Submission Requirements), 'Manga Award Contest Submissions requirements', '結果発表' (Results Announcement), 'イベント' (Event), and 'お問合せ' (Contact Us). The main banner features a vibrant illustration of a young girl with brown hair, wearing a green beret and a yellow dress, holding a paintbrush and looking excited. A yellow dragon-like creature is also depicted. Text on the banner includes 'Manga Award Contest Submissions requirements', 'いわてマンガ大賞コンテスト', '第15回', '作品大募集!', '2025年9月22日必着!', and 'テーマ 岩手に関連のあるオリジナル作品'. There are also smaller text boxes providing details about the contest, such as 'デジタル原稿は応募フォームからの応募が可能です!!' and '一次選考通過者は漫画編集者からアドバイスがもらえる!!'.

図2: 「いわてマンガ大賞」コンテストの公式サイト

「いわてマンガ大賞」コンテスト

<https://iwatemangagp.com/>



図3: Fu「結びの葉」より

Fu「結びの葉」

<http://www.art.iwate-u.ac.jp/musubinoha/>



図4: 盛岡市中央公民館の展示室にて

## 令和7年度地域課題解決プログラム

### ○現地視察・検討会議

・令和7年12月5日（金）盛岡市中央公民館にて

参加学生：

（3年生）大和田美咲、金田一ななほ、金野愛里、佐藤明日香、柚澤友梨

岩手県文化振興課の刈屋江美子さん、佐藤愛香さんとともに盛岡市中央公民館にて学芸主査の山本正哉さん、社会教育指導員の鎌田紀子さんと面会し、展示室の確認（図4）と展覧会についての打ち合わせを行った。

### ○盛岡市中央公民館における展示企画

タイトル：イラスト・マンガの「力（ちから）」～いわてマンガプロジェクトについて～

本展は、岩手県が主導して展開している「いわてマンガプロジェクト」の活動や、それによって生み出された作品、そこに描かれた岩手の文化や暮らし、景観などを紹介することによって、岩手の魅力とそれを読者に届けようとするイラスト・マンガの「力」を感じてもらうことを目的とするものである。

また、展示において岩手県にイラスト・マンガ文化を支える人材が多く存在することを紹介するとともに、イラスト・マンガの製作に係る資料を展示することで、未来の創作者に向けてイラスト・マンガ文化を紹介し文化の振興に資することも目的とするものである。

### 展示内容案（盛岡市中央公民館の山本正哉さんより）

企画展示室全面を使用し、3つのテーマに分けて展示する。

#### 1. 「いわてマンガプロジェクト」について

いわてマンガプロジェクトの趣旨と現在までの歴史について紹介。「コミックいわて」の展示等を行う。

（展示物）

- 「コミックいわて」（実物）
- 「いわてマンガプロジェクト」の趣旨・歴史に関するパネル
- いわてマンガ大賞コンテスト等の写真もあれば。

#### 2. イラスト・マンガに描かれる岩手

「コミックいわて」や「いわてマンガプロジェクト」の成果によって描かれた岩手の風景・文化の展示等を行う。

（展示物）

- 「コミックいわて」やその他のイラスト・マンガの複製原画  
（原画に関する作品と描かれた風景・文化の紹介をキャプションで）

#### 3. イラスト・マンガができるまで

イラスト・マンガの制作について、道具や制作手順を実物を使って紹介。

（展示物）

- 「いわてマンガプロジェクト」に参加している作家さんの制作手順を展示。  
マンガを例にすると（プロット→）ネーム→下描き→ペン入れ→仕上げの順を展示。
- イラスト・マンガ制作道具を実物展示。  
昔と今の制作環境の違いを紹介。  
昔：漫画原稿用紙、丸ペン、Gペン、インク、ホワイト、雲形定規、etc  
今：デスクトップPC、液晶ペンタブレット、イラスト制作ソフト  
今については観覧者が体験できるような環境を準備する。

## 令和7年度地域課題解決プログラム

### ○展示企画案に関する学生提案

学生グループによる提案では下記のような事例があった：

- ・回転式の吊り下げパネル  
→漫画のコマを切り取ったものを展示
- ・コメントコーナー  
→付箋などで貼り付け、作家さんへの意見や感想など
- ・岩手県内のモチーフマップ作成  
→QRコードを取り込んだモチーフデザインを配置
- ・漫画のコマをパネル化したフォトスポット
- ・クリアフォトカードの作成
- ・オリジナルキャラクターによるQRコード配布デザイン  
→添付するQRコードをランダムにし、くじ引き形式にする
- ・それぞれの作品のキャッチコピーの作成  
→A4パネルにて展示

また、学生側から展示で使用したい作品については下記の作品を提案した：

- ・『賢治百景』作者 ヒコ&マッキィ  
1ページの《第1景 野良に立つ賢治》
- ・『よだかと星』作者 榊カルラ  
6ページ 八幡宮の背景
- ・『蓬莱島への道』作者 こうの史代さん  
タイトルのある1ページ
- ・『絵馬幻想』作者 こうの史代さん  
タイトルのある1ページ
- ・『王子の幸せなお食事』作者 田中美菜子  
タイトルのある1ページ
- ・『桜の神様』作者 Kana  
タイトルのある1ページ、24ページ（最後のページ）（花びらの花火）
- ・『悪路王』作者:為永江田  
3ページ左下のコマ「ゴオツ」
- ・『おでんせ妖荘』作者:もくたろ。  
18ページ上の食べられそうなコマ
- ・『岩手流水物語』作者:風見緑哉、らんぼ  
上のコマ「ゴゴゴ」
- ・『岩手流水物語』該当コマのセリフ  
「あなたが落としたのは金の鮭ですか」「それとも銀の鮭ですか」
- ・『アギオンとウンギョ』小田ひで次  
アギオンとウンギョの2体
- ・『つつがなしや』/あだちとか  
タイトルのある1ページ、17ページ「この地安らかであれば」とのページ
- ・『岩手さちこと申します!』/篠原ウミハル  
タイトルのある1ページ
- ・『一器当千』/青木幸子  
タイトルのある1ページ、最終ページ（鉄卵のページ）
- ・『北上の鬼は踊りて語る』/竜宮ツカサ  
タイトルのある1ページ、14-15ページ 鬼剣舞の説明のページ
- ・『南面の桜』 ナリタカ先生  
2ページ、桜とタイトルロゴが入ったコマ

○学生による展示企画の提案

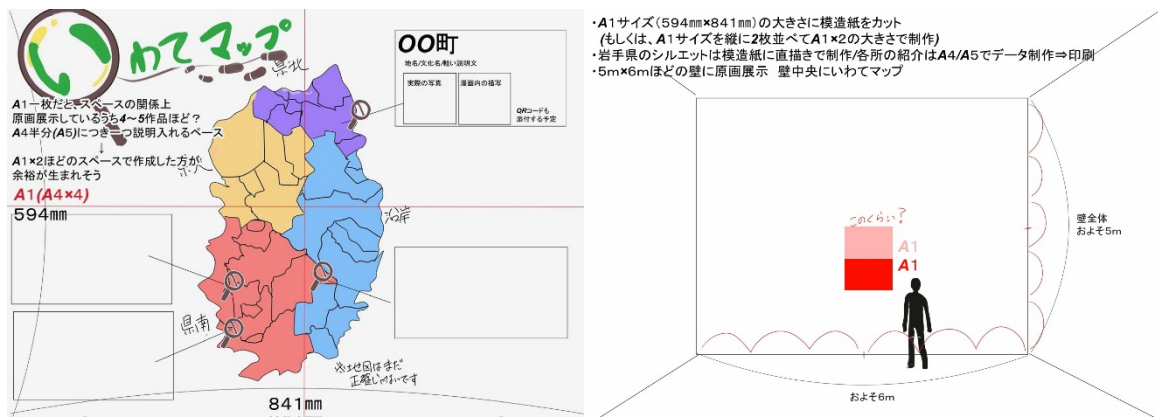


図5：岩手県マップ・ワンポイントイラスト・QRコードで作品とリンクする案  
 岩手県マップ案：金野愛里  
 ワンポイントイラスト案：金田一ななほ、柚澤友梨  
 QRコードでリンクするイメージ制作：富沢優衣、柚澤友梨、大和田美咲、佐藤明日香

## 令和7年度地域課題解決プログラム

### ○展示企画の準備に関する打ち合わせ

・令和8年2月19日（木）盛岡市中央公民館にて

参加学生：

（3年生）大和田美咲、金田一ななほ、佐藤明日香、杉澤友梨、富沢優衣、坂下愛実

（2年生）田口結梨

盛岡市中央公民館にて学芸主査の山本正哉さん、岩手県文化振興課の刈屋江美子さん、佐藤愛香さんとともに展示企画の準備について確認や調整を行った。（図6）（図5：QRコードの活用に関してこの時点で学生側の作成した案）



図6：盛岡市中央公民館の展示室にて

### ○令和7年度盛岡市中央公民館企画展の開催予定

イラスト・マンガの「力（ちから）」  
～いわてマンガプロジェクトについて～

令和8年3月22日（日）～4月12日（日）

開催時間：9時～17時（最終日は15時）

盛岡市中央公民館 企画展示室

岩手県盛岡市愛宕町14-1

## 令和7年度地域課題解決プログラム

### ○岩手県文化スポーツ部文化振興課 刈屋江美子さんよりコメント

本県が実施する「いわてマンガプロジェクト」の取組について、ヴィジュアル研究室の学生の皆さんから「コミックいわて」の周知方法や展示に関するご意見をいただくとともに、学生の視点で展示物の制作にも携わっていただき、マンガプロジェクトの発信につながりました。

また、地域共創入門でのマンガプロジェクトの取組を紹介する授業では、学生の皆さんから本県の特徴ある取組への関心の高まりが見られ、本県のマンガ文化の発展等に向けた多数のアイデア提案がありました。

本プロジェクトを通して、マンガに関する若年層の方々の考えに触れる機会をいただいたことや、学生の皆さんから提案のあったアイデア等について、今後の「いわてマンガプロジェクト」の取組に活かしていきたいと考えています。

### 【謝辞】

本研究プロジェクトに関して、岩手県文化スポーツ部の米澤功一さん、刈屋江美子さん、佐藤愛香さん、盛岡市中央公民館学芸主査の山本正哉さんにたいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。